

報道関係者用

愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会
日本代表選手団

Media Guide

2026年10月13日 Ver.2.2



公益財団法人日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会

Japanese Paralympic Committee

はじめに

愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会の
E、EPアクレをお持ちのメディアの皆様、
日本代表選手団員の広報・報道対応についてご案内いたします。

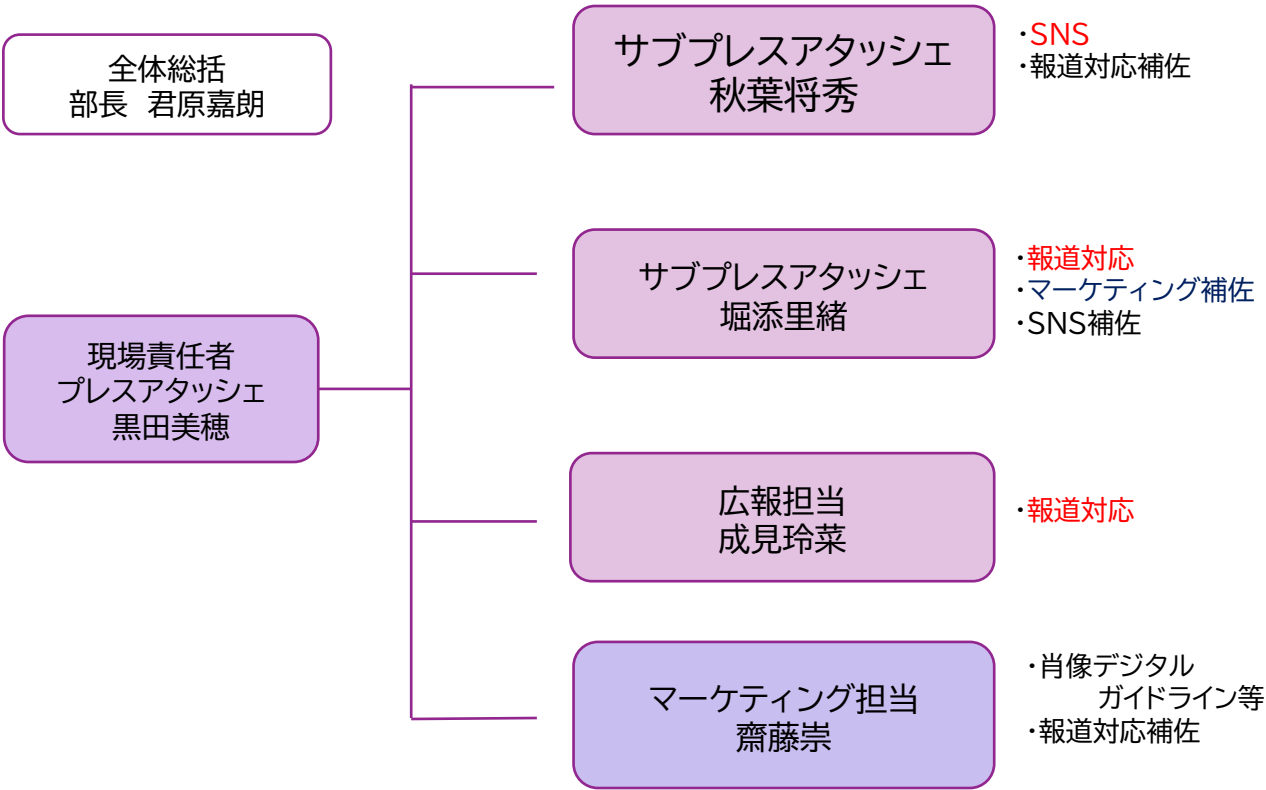
さまざまな制限のある中、取材活動をより円滑に行っていただけるよう、
取材ガイドにまとめましたので、ご一読の上、
ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今大会において、選手・競技パートナーが最高のパフォーマンスを
発揮できるよう、皆様のお力添えをお願い申し上げます。

I. 取材要領



【体制図】



NF

<主な対応業務>

- ①情報提供の一本化(各競技団体の行動予定表をメディアへ提供)
- ②個別取材申請の受付・調整
- ③各会場における日本代表選手のミックスゾーン取材時のサポート
- ④JPCメダリスト記者会見の実施、メダリストテレビ出演への協力
- ⑤選手団本部記者会見の実施(入村時、大会総括など)
- ⑥各競技の記者会見の実施(希望する競技団体のみ)
- ⑦JPC公式ホームページ、JPC公式SNS等での情報発信
- ⑧開閉会式チケットの配分 他

お問合せ先

日本パラリンピック委員会(JPC)広報課

Email: jpcjpsa-media@parasports.or.jp

期間中(10/11~10/25)現地携帯:
プレスアタッシェ 080-9163-2223(黒田)

広報拠点

JPC村外拠点

名古屋金山ホテル:〒460-0022 愛知県名古屋市中区金山4-6-25



記者会見場
※2階 会議室

メディア対応期間

選手村 入村から退村まで

※今大会、選手村という施設はなくホテル等ですが、過去大会等の連絡を参考に分かりやすいよう記載。

9/29
結団式

10/11
選手村開村

10/18
開会式

10/24
閉会式

個別取材

個別取材申請JPC窓口期間
(宿泊ホテル(選手村)入村～退村)まで

入村時
記者会見

団長入村会見
10/14午前
(NFは必要に応じて)

メダリスト
記者会見等

メダリスト会見・テレビ出演 等
(原則、最終種目の翌日)予定
(メダリスト会見はリクエストベース)

・最終合宿地までは、原則として各NFがメディア対応窓口となります。

1. 基本ルール

取材に関するお願い等

- 原則として、共同取材(会見、囲み)とさせていただきます。
個別取材は申請に基づき、個々に可否の判断をさせていただきます。
- 開会式前日までは、各競技団体毎のスケジュールをJPC愛知・名古屋2026大会特設サイト報道関係者向けページに掲載します。
- 日本代表選手団員(選手、コーチ、役員等)への直接の取材申し込みはご遠慮ください。
- 本ガイドの記載内容および取材予定は、当日の状況により変更されることがありますので予めご了承ください。

2. 大会前の記者会見 等

(1)入村後の日本代表選手団 団長記者会見

- 日時： 10月14日(水)amで調整中
- 場所： JPC村外拠点金山ホテル2階会議室
- 出席者： 三阪洋行団長、谷本歩実副団長（予定）
- 詳細は決まり次第、リリース配信予定

(2)各競技チーム毎の記者会見

各競技チームが希望した場合のみ、実施します。

- 期間： 入村後の数日間
- 単位： 各競技 ※30分想定
- 場所： JPC村外拠点金山ホテル2階会議室もしくはMPC
- 詳細は決まり次第、リリース配信予定

3. 開会式、閉会式時 の取材

- 開閉会式 メディアチケットは枚数が限られているため、ご希望に添えない場合があります。あらかじめご了承ください。
- 開会式チケット配布： 未定(配布方法は後日案内)
- 閉会式チケット配布： 未定(配布方法は後日案内)
希望者が多い場合は、調整の上、抽選を行います。
- 開閉会式会場での日本代表選手団の取材対応はありません。
選手のコメントを別途、提供させていただきますので、選手の速やかな移動等にご協力ください。

4. 公式練習時の取材

- 取材の可否等は、デイリースケジュール(行動予定表)でご案内する予定です。

5. 試合(競技会場)での取材 ～ミックスゾーン～

- 試合時の競技会場での取材は、ミックスゾーンで行います。
- ミックスゾーンの取材管理は組織委員会が行いますが、一部、日本代表選手団広報チームのスタッフが入り、インタビュー進行のサポートを行うことがありますので、ご協力いただきますようお願いいたします。
- 競技によっては、選手のその日最後の試合が終了した後のみインタビューを受けさせていただくことがありますので、ご了承、ご協力をお願いします。
- 質問内容は、試合に関することのみとし、選手の体調に配慮いただきながらコンパクトな取材にご協力ください。**選手のプロフィールやパーソナルなこと、競技ルール等は、特設サイト内の情報をご参照ください。**

※JPC愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会 特設サイト

特設サイト:

<https://www.parasports.or.jp/paralympic/jpc/aichi-nagoyapara2026/index.html>

報道関係者向けページ:

ID 及びパスワードは、jpcjpsa-media@parasports.or.jp まで申請をお願いします。

6. 表彰式の取材

※表彰式後のインタビューは、現地のAINAGOCスタッフにお尋ねください。

7. メダリスト会見 ～村外拠点会見場での取材対応～

●日本代表選手団のメダリスト会見などの各種会見・取材は、JPC村外拠点にて行う予定です。

●会見スケジュールのお知らせと取材申請(随時)

会見の開催予定は、決定次第、随時 JPC愛知・名古屋2026大会特設サイトに記載します。

最新の情報はそちらをご確認ください。また、ご登録いただいたプレスの皆様には、会見スケジュールが決まり次第メールにてご案内いたします。

※競技スケジュールの都合上、ご案内が深夜となる可能性もございますのでご了承ください。

●オフィシャル 素材提供について

各会見とも オフィシャル素材写真、映像の提供予定はございません。

JPC村外拠点会見場

※本ガイド P4をご確認下さい。

8. 個別取材

- 個別取材は現地入村後から退村までの期間内で申請を受け付けます。
- 原則として、対象選手の全出場種目終了後の取材とさせていただきますが、スケジュールによっては、競技団体と相談の上、調整を行う場合があります。
- 取材希望者は、所定の用紙に必要事項を記載の上、**取材希望日の前々日18時まで**にメールにて、JPCまでお申込みください。
申込書はJPC愛知・名古屋2026大会特設サイトよりダウンロードをお願いいたします。
※申し込み先: jpcipsa-media@parasports.or.jp
- 取材は、ご要望に添えない場合もありますので予めご了承ください。
- 日本代表選手団員個人への直接の取材申込みやコンタクトは固くお断りいたします。

【取材申込書】＊ダウンロードしてご使用ください



取材申込書

【メールアドレス】jpcipsa-media@parasports.or.jp

愛知・名古屋 2026 アジアパラ競技大会

開催期間: 2026年10月18日(日)～10月24日(土)
取材受付期間: ※選手宿泊ホテル(選手村)入村後～選手宿泊ホテル選手村出発まで
※取材受付期間以降の取材申請は、各競技団体へお問合せください。

愛知・名古屋 2026 アジアパラ競技大会・日本代表選手団員への個別取材をご希望の場合は、下記項目をご記入の上、取材希望日の前々日 18:00 までに、上記メールアドレス宛にお申し込みください。ご要望に添えない場合もありますので、予めご了承ください。

貴社名			
ご所属			
お名前	(計 名)		
媒体区分	☐ TV	☐ 新聞	☐ 雑誌 ☐ その他()
取材希望者	競技名:	選手・スタッフ名:	
取材ご希望日	日付: 月 日	時間:	
ご連絡先	(電話番号) (メールアドレス)		
撮影の有無	☐ 有(ムービー 台/スチール 台) / ☐ 無		
取材内容			
掲載・放送予定日	日付: 月 日	時間:	
備考欄			
回答 (JPC 記入)	☐ 取材承諾 条件() ☐ 取材不可 理由() 回答日: 回答者:		

※本件の取材は報道を目的とした法人、および法人から委託を受けた方を対象としております。
報道以外の目的での取材ご希望の方は、別途、企画書の送付をお願いいたします。内容を検討させて頂き、取材の可否についてご連絡させていただきます。

<本件に関するお問合せ先>
 公益財団法人日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会
 企画広報部(広報担当): 黒田・秋篠・塩澤
 email: jpcipsa-media@parasports.or.jp

9. 試合結果、大会スケジュール等の情報提供

●AINAGOCの大会公式サイトよりご確認ください。

JPCのwebサイトではリザルトの掲載は致しません。

10. SNS#ハッシュタグについて

■メディア利用可能ハッシュタグ

※原則、ハッシュタグに追加で記載されたもの

#JPCMEDIA

日本代表選手団の投稿で「**#JPCMEDIA**」が付けられたものについては、メディアが以下の条件に従って利用可といたします。

✓クレジット・出典表記：必須 ✓加工：不可

✓利用可能期間：2026年12月31日

✓利用態様：パラスポーツ・アスリートの魅力発信のために限る。

✓TEAM JAPANの名誉・品位を損なう恐れがある使用は不可。

11. その他

- 選手(日本代表選手団員)がメディア行為を行うことは禁止されています。
(SNSでのメディア行為も含む)。

※メディア行為 …… メディアとしての取材、レポート、寄稿など



Ⅱ.資料編

目次	ページ数
大会概要	15～
- 基本情報	15
- 大会概要	15・16
- ロサンゼルス2028パラリンピック予選	16
- 実施競技・種目	17
- 競技スケジュール・会場	18
- 大会開催の意義・コンセプトなどについて	19
日本代表選手団概要	20・21
日本代表選手団ファクト集	22～
各競技クラス・カテゴリー分け	24～
- クラス分けとは	24
- クラス分けに関する基本用語	25・26
- 各競技のクラス分け概要	27～30
参考データ集	31～
- 日本の参加状況&メダル実績／日本選手団主将・旗手・団長	31
- 注目データ(最年長選手／最年少選手／最多出場選手)	32
<参考>タレント発掘の取組みーJ-STARプロジェクト	33～35
特設サイト 報道関係者向けページ	36
愛知・名古屋2026 参考リンク集	37

基本情報

大会名称: 愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会

※第5回アジアパラ大会(Aichi-Nagoya 2026 Asian Para Games)

大会期間: 2026年10月18日(日)～24日(土)[7日間]

開催都市: 日本 愛知県・名古屋

運営主体: アジアパラリンピック委員会(AsPC)、愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会

TIPS! アジアパラ競技大会とは

1975年より9回にわたり開催してきたフェスピック競技大会を継承している、アジア地域におけるパラリンピック・ムーブメントの推進とパラスポーツのさらなる進展を図るために開催するアジア地域の障がい者総合スポーツ大会。4年に一度、国際パラリンピック委員会(IPC)の地域委員会であるアジアパラリンピック委員会(AsPC)が主催する。

情報引用: 日本パラリンピック委員会 (<https://www.parasports.or.jp/paralympic/jpc/asianpara/>)

大会概要

参加国・地域: 45(前回44か国・地域)

※過去最多数のNPCが参加する見込みとされている

2026/8/10時点 愛知・名古屋2026組織委員会より引用 (<https://www.asianparagames-2026.org/tournament/history/>)

参加選手数: 約3,000人

TIPS! 過去のアジアパラ競技大会と日本の成績

回	開催年	開催都市	参加国数	参加選手	競技数	日本選手団 参加数		メダル数			
						総数	選手	金	銀	銅	計
1回	2010年 12月12日-19日	中国・広州	41か国	2,289	19	359	223	32	39	32	103
2回	2014年 10月18日-24日	韓国・仁川	41か国	2,497	23	476	285	38	49	56	143
3回	2018年 10月6日-13日	インドネシア・ ジャカルタ	43か国	2,888	18	484	304	45	70	83	198
4回	2023年 10月22日-28日	中国・杭州	44か国	約3,100	22	430	259	42	49	59	150
5回	2026年 10月18日-24日	日本・ 愛知・名古屋	45か国	約3,000	18	455	285				

※愛知・名古屋2026は予定(第5次発表時点)

情報引用元: 日本パラリンピック委員会(<https://www.parasports.or.jp/paralympic/jpc/asianpara/>)

HISTORY フェスピック競技大会からアジアパラ競技大会へ 日本から始まったアジア地域のパラスポーツムーブメント

アジアパラ競技大会に先駆けて行われたフェスピック競技大会(極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会, Far East and South Pacific Games for the Disabled:FESPIC)は、1964年東京パラリピック競技大会もきっかけの一つとなり、1975年に第1回大会が日本・大分で開催され、アジア地域のパラスポーツムーブメントの最初の一步となった。

少しでも多くの障がい者がスポーツの国際大会を経験し、リハビリの増進および社会参加のきっかけとなることを目指したフェスピック大会は、競技性の高いパラリンピックとは異なり、フェスピック圏の国々に対する障がい者スポーツの振興やスポーツを通じての社会参加を重要な目的のひとつとしていた。1999年のバンコク大会、2002年の釜山大会では、IPCの公認を受けることになり、一部競技では1位の選手・チームがパラリンピックの出場権を得るなど、フェスピック大会がスポーツ振興を目指すのかエリートスポーツを目指すのか、今後の大会のあり方が問われる大会となった。

2002年釜山大会時に開催された総会で、本来の対象地域であった極東・南太平洋地域以外からも、加盟を希望する国を全て受け入れることが決定され、名称もフェスピック連盟(FESPIC Federation)と改称された。2006年11月には、2006年マレーシアのクアラ・ Lumpurで開催される第9回フェスピック競技大会後、アジアパラリンピック評議会とフェスピック連盟が合併し、「アジアパラリンピック委員会」となることについて、それぞれの総会で合意した。これにより、2006年の第9回フェスピック大会後の地域大会は「アジアパラ競技大会」として引き継がれることになった。

フェスピック競技大会を継承したアジアパラ競技大会は、アジアパラリンピック委員会(AsPC)が主催し、アジア地域における独自の総合競技大会参加の機会を提供するほか、参加国や開催国の社会変革やアクセシビリティ向上の原動力となっている。

情報引用・抜粋元:

安岡 由恵,【報告】フェスピック大会からアジアパラ競技大会へ ～アジア地域のパラスポーツの変遷と意義～, 日本財団パラリンピックサポートセンターパラリンピック研究会紀要, 2026, 25 巻, p. 99-128

日本パラリンピック委員会 (<https://www.parasports.or.jp/paralympic/ipc/asianpara/>)

ロサンゼルス2028パラリンピック競技大会予選

愛知・名古屋アジアパラ競技大会は以下の競技でロサンゼルス2028パラリンピック予選の一部となっている。

- 射撃:男子4枠、女子3枠、ジェンダーフリー3枠が与えられる
(2026年8月発行のQualification Regulationより)

また、他の一部競技でもQualificationに向けたランキングに影響する大会となる。例えば、車いすフェンシングは2026年10月1日以降の対象大会がランキングに加算されるため、愛知・名古屋2026大会はランキングに加算される最初の大きな大会の一つとなる。

参照:ロサンゼルス2028Qualification Regulation

<https://www.paralympic.org/la-2028/qualification-regulations>

実施競技・種目

実施競技・種目数:18競技 508種目

過去大会の実施競技比較

競技名	2010	2014	2018	2023	2026
	19競技	23競技	18競技	22競技	18競技
アーチェリー	○	○	○	○	○
陸上競技	○	○	○	○	○
バドミントン	○	○	○	○	○
ボッチャ	○	○	○	○	○
自転車競技	○	○	○	○	○
ブラインドフットボール (5人制サッカー)	○	○		○	○
7人制サッカー	○	○			
ゴールボール	○	○	○	○	○
柔道	○	○	○	○	○
パワーリフティング	○	○	○	○	○
ローイング (ボート)	○	○		○	
射撃	○	○	○	○	○
水泳	○	○	○	○	○
卓球	○	○	○	○	○
テンピンボウリング	○	○	○		
座位バレーボール (シットイングバレーボール)	○	○	○	○	○
車いすバスケットボール	○	○	○	○	○
パラフェンシング (車いすフェンシング)	○	○	○	○	○
車いすテニス	○	○	○	○	○
ローンボウルズ		○	○	○	
セーリング		○			
車いすダンス		○			
車いすラグビー (ウィルチェアラグビー)		○			○
カヌー				○	
テコンドー				○	○
チェス			○	○	
囲碁				○	

TIPS! 実施競技

正式競技は規定されていないが、基本的な考え方としては、パラリンピック正式競技のうちアジア地域で一定の参加数が見込める競技と、地域内での普及を目指している競技やパラリンピック競技以外の地域内での普及を目指す競技等の中から決定される。

情報引用：日本パラリンピック委員会 (<https://www.parasports.or.jp/paralympic/jpc/asianpara/>)

競技スケジュール・会場

※ 2026年9月11日時点

競技		会場	10月								
			16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日
開閉会式		名古屋市瑞穂公園 陸上競技場			○						○
アーチェリー		岡崎中央総合公園 多目的広場				○	○	●	●	●	●
陸上競技		名古屋市瑞穂公園 陸上競技場				●	●	●	●	●	
バドミントン		一宮市総合体育館	○	○		○	○	○	○	●	
ボッチャ		名古屋市総合体育館 [レインボーホール]		○		○	○	●	○	○	●
自転車 競技	トラック	伊豆ベロドローム				●	●				
	ロード	サイクルスポーツセンター 5キロサーキット						●	●	●	
ブラインド フットボール		名古屋市鶴舞公園多目的 グラウンド [テラスポ鶴舞]	○	○		○	○	○		●	
ゴールボール		豊橋市総合体育館		○		○	○	○	○	●	
柔道		愛知県武道館				●	●	●			
パワーリフティング		名古屋市中心企業振興会館				●	●	●	●	●	●
射撃		愛知県総合射撃場				●	●		●	●	
座位バレーボール		岡崎中央総合公園 総合体育館				○	○	○	○	●	
水泳		名古屋市総合体育館 [レインボープール]				●	●	●	●	●	
卓球		スカイホール豊田	○	○		○	●	○	●	●	
テコンドー		名古屋市瑞穂公園体育館				●	●	●			
車いす バスケットボール		愛知国際アリーナ	○	○		○	○	○	●	●	
パラフェンシング		名古屋市稲永 スポーツセンター				●	●	●	●	●	
車いすラグビー		ウィングアリーナ刈谷					○	○	○	●	
車いすテニス		名古屋市東山公園 テニスセンター				○	○	○	●	●	

● 金メダルイベント
○ 通常イベント

愛知・名古屋2026大会開催の意義

アジアパラ競技大会の開催には、アジア競技大会と共通する開催意義に加え、愛知・名古屋が、日本、さらにはアジアの障がい者スポーツをリードすることにより、障がいへの理解促進や、障がいのある方の社会参加の促進の大きな役割を果たし、ひいては、多様性を尊重し合う共生社会の実現に貢献するという意義があります。

愛知・名古屋2026組織委員会(<https://www.asianparagames-2026.org/tournament/overview/>)

大会コンセプト

- ・ アスリートセンタードの視点
- ・ 既存施設の活用
- ・ 先端技術の駆使
- ・ 伝統と県民・市民性に触れるおもてなし
- ・ アジアパラ競技大会の開催を誇りに、更なるスポーツ文化の普及へ貢献
- ・ 共生社会の実現

愛知・名古屋2026組織委員会(<https://www.asianparagames-2026.org/tournament/overview/>)

アクセシビリティに関する指針

愛知県、名古屋市及び公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会は、大会の開催に向けて、様々な障がいのある人に加え、高齢者、妊産婦、乳幼児を連れている人などの多様なニーズに対応し、すべての人が両大会にアクセスできるアクセシビリティを確保するために「第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会アクセシビリティ・ガイドライン検討会」を設置し、大会運営に係るアクセシビリティ・ガイドラインを学識者や障がい者団体、アスリート等の委員22名とともに検討し、2023年12月12日に策定・公表しました。

「Aichi-Nagoya 2026 アクセシビリティ・ガイドライン」は愛知・名古屋2026大会組織委員会よりご確認ください。

愛知・名古屋2026組織委員会(<https://www.asianparagames-2026.org/tournament/accessibility/>)

■スローガン「ともに挑み、ともにひらく。」

■選手団人数(※第5次発表終了時点) 455名

選手285名、競技パートナー15名、コーチ・スタッフ132名、本部役員スタッフ23名

■団長:三阪 洋行 (みさか ひろゆき)

アジアパラリンピック委員会(APC)理事/アスリート委員長

日本パラリンピック委員会(JPC) 委員長

公益財団法人日本パラスポーツ協会 常務理事



■副団長:谷本 歩実 (たにもと あゆみ)

公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会
アスリート 委員長

公益財団法人日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会 強化本部長

公益財団法人日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会 運営委員



■副団長:滝澤 幸孝 (たきざわ ゆきたか)

公益財団法人日本パラスポーツ協会
強化部長/ 日本パラリンピック委員会(JPC) 事務局長



■旗手:中川 もえ (なかがわ もえ)

競 技: 陸上競技

所 属: 東京大学大学院

主な戦績: バーレーン 2021 アジアユースパラ競技大会
陸上競技 100mT47 1位、200mT47 1位



■旗手:橋本 勝也 (はしもと かつや)

競 技: 車いすラグビー

所 属: アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

主な戦績: パリ 2024 パラリンピック競技大会
車いすラグビー 金メダル



2026年9月28日現在

■参加競技数:18 競技(18 競技実施)

【競技別参加者一覧】

競技	選手数			競技 パートナー	コーチ・ スタッフ	本部 スタッフ	合計
	合計	男	女				
アーチェリー	7	5	2		3		10
陸上競技	53	32	21	7	20		80
バドミントン	12	8	4		6		18
ボッチャ	8	3	5	4	5		17
自転車競技	9	7	2	2	6		17
ブラインドフットボール	8	8	-	2	6		16
ゴールボール	12	6	6		6		18
柔道	13	6	7		7		20
パワーリフティング	10	6	4		5		15
射撃	7	3	4		3		10
水泳	39	23	16		18		57
卓球	23	12	11		10		33
テコンドー	6	4	2		3		9
座位バレーボール	22	10	12		9		31
車いすバスケットボール	24	12	12		10		34
車いすフェンシング	10	5	5		5		15
車いすテニス	10	6	4		4		14
車いすラグビー	12	11	1		6		18
選手団本部						23	23
合計	285	167	118	15	132	23	455

愛知・名古屋2026大会の注目データ

- アジアパラ大会史上男子最年少出場の山田龍芽選手(水泳・14歳)と、女子最年長出場の別所キミエ選手(卓球・78歳)が参加予定
- 11名の選手が第一回大会である2010年大会から5大会連続で出場予定
- 初出場の選手は121名で、全体の42%
- 通算19個でアジアパラ競技大会通算最多メダル獲得者の木村敬一選手(水泳)が今大会も参加予定
- 通算10個でアジアパラ競技大会通算最多金メダル獲得者の木村敬一選手(水泳)・鈴木孝幸選手(水泳)が今大会も参加予定
- 通算3個でアジアパラ競技大会女子通算最多金メダル獲得者の木下あいり選手(水泳)・上地結衣選手(車いすテニス)が今大会も参加予定
- 女性選手は全体の41.4%で過去最高の割合

※詳細は「参考データ集 参照」

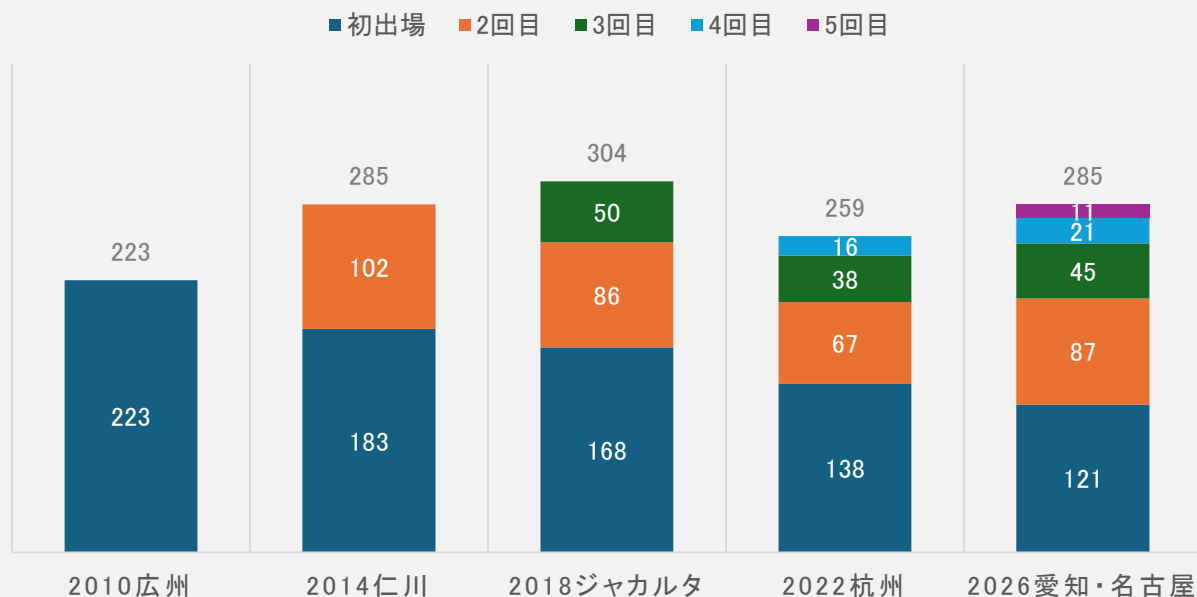


図:過去大会の選手数と出場回数

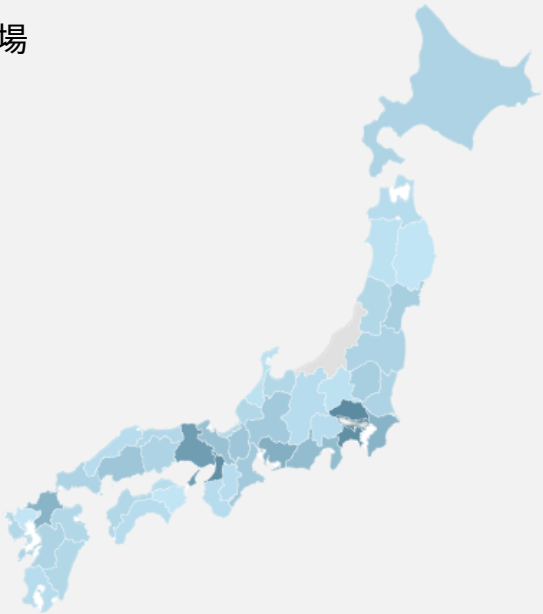
※年齢は全て大会開会式時点の年齢(第5次発表)

出身地に関するデータ

- 東海地方*からは33名、全体の11.6%が出場

表：選手の出身都道府県（上位16まで）

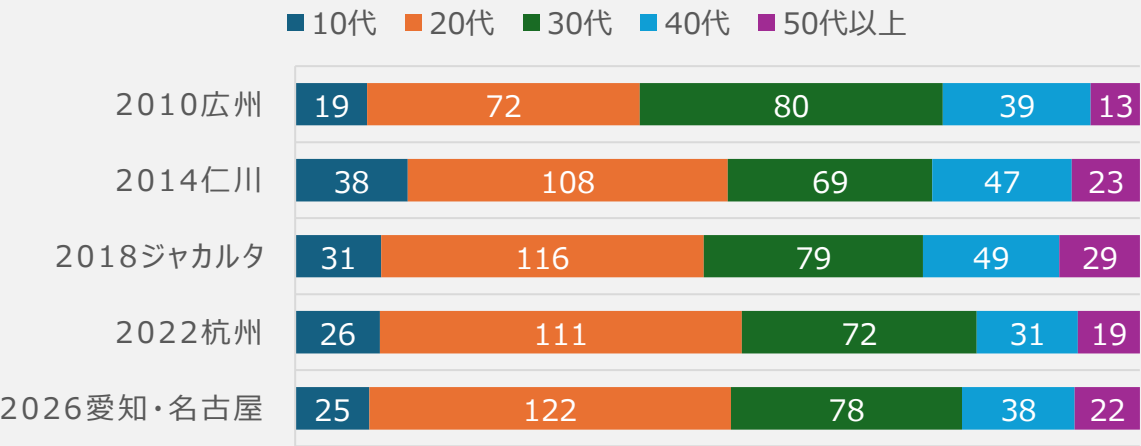
都道府県	選手数	割合
東京	35	12.3%
埼玉	20	7.0%
神奈川/大阪	19	6.7%
兵庫	16	5.6%
愛知	12	4.2%
千葉/福岡	11	3.9%
静岡	9	3.2%
京都	8	2.8%
滋賀/広島	7	2.5%
岐阜/三重	6	2.1%
宮城/栃木	5	1.8%



※公開を希望しない選手(16名)を除く ※第5次発表時点 ※東海地方：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

今大会の10代、20代の選手の割合は51.6%

- 平均年齢は31.9歳



図：過去5大会の日本選手 年代

※年齢は全て大会開会式時点の年齢(第5次発表)

24

クラス分けに関する基本用語

クラス分け	競技者の障がい、定められた規則の出場資格のある障がいに該当するか決定し、競技や種目の基礎的な動作に影響する競技者の障がい程度に基づいて、競技クラスに競技者をカテゴリー分けすること。
競技クラス	IFクラス分け規則の中で定める競技会に参加するためのカテゴリー。競技者が実行できる競技の基本となる特定の課題や動作に基づいて分類される。
出場資格のある障がい (Eligible Impairment: EI)	パラスポーツの競技に出場するための必要条件としてIPCまたはIFに指定されている障がい。
最小障がい基準(Minimum Impairment Criteria: MIC)	出場資格のある特定の障がいにおいて、競技に参加するために最低限必要とされる障がいの程度の基準。
競技クラスステータス	競技者評価に関する再評価の必要性和クラス分けプロテストの可否を示すための、競技クラスに指定される呼称。以下の4つのステータスがある。
<u>Confirmed (C)</u>	クラスが確定された競技者のステータス。IPC/IF公認大会に参加する際、再度クラス分けを受ける必要はないが、抗議があった場合、再度クラス分けを受けなければならない。
<u>Review at the Next Available Opportunity (R-NAO)</u>	IPC/IF公認大会に参加する際、クラス分けを受けなければならない競技者のステータス。
<u>Review with a Fixed Review Date (R-FRD)</u>	通常、「FRD2028」のように「FRD」に指定期間(年)をつけたかたちで表記される。IPC/IF公認大会に参加する際、指定期間前にクラス分けを受ける必要はないが、同期間後はクラス分けを受けなければならない競技者のステータス。
<u>Expired (E)</u>	失効
競技者評価(Athlete Evaluation)	IFクラス分け規則に基づいて実施される、競技者に競技クラスと競技クラスステータスを割り当てるための手続。
国際クラシファイア	IFによって認定された、クラス分けパネルの一員として競技者の評価を行う人物。
IFクラス分け規則	競技者評価等において、IFが採用するクラス分けに関する方針、手続、手順、説明を定めたもの。
意図的不実表示 (Intentional Misrepresentation: IM)	競技者評価の過程において、競技者の技術、能力、障がいの程度や性質について、(作為、不作為を問わず)意図的にクラス分けパネルをあざむく行為を競技者、もしくは支援者が企図すること。

<参考> 日本パラリンピック委員会

(<https://www.parasports.or.jp/paralympic/classification/index.html>)

各競技のクラス分け概要

TIPS! アジアパラ競技大会のクラス分け

国際パラリンピック委員会(IPC)の方針により、パラリンピック競技大会ではクラス分けが基本的に実施されないため、アジアパラ競技大会は多くの競技において国際クラス分けを受ける機会の確保という点で大きな意義を持つ大会です。特に初めて国際大会に参加するアジアの次世代を担う選手がクラス分けを受け、国際大会に参加するために重要な役割を果たしています。

【愛知・名古屋アジアパラ競技大会における各競技の出場選手の障がい 概要】

1	アーチェリー	肢体不自由
2	陸上競技	肢体不自由、視覚障がい、知的障がい
3	バドミントン	肢体不自由
4	ボッチャ	重度脳性まひや同程度の四肢重度機能障がい
5	自転車競技	肢体不自由、視覚障がい
6	ブラインドフットボール	視覚障がい
7	ゴールボール	視覚障がい
8	柔道	視覚障がい
9	パワーリフティング	下肢に障がいのある肢体不自由
10	射撃	肢体不自由
11	水泳	肢体不自由、視覚障がい、知的障がい
12	卓球	肢体不自由、知的障がい
13	テコンドー	上肢に障がいのある肢体不自由
14	座位バレーボール	肢体不自由
15	車いすバスケットボール	肢体不自由
16	車いすフェンシング	肢体不自由
17	車いすテニス	肢体不自由
18	車いすラグビー	四肢障がい（四肢麻痺、四肢欠損など）

アーチェリー	
クラス	障がい
PI1	車いすの四肢麻痺(頸髄損傷)、もしくはそれに相当する障がい
PI2	車いす使用の対麻痺(胸・頸髄損傷)、もしくはそれに相当する障がい 立位もしくは椅子に座って競技する障がい

陸上競技		
クラス	障がい	
T/F11	視覚障がい	↑ 重い
T/F12		
T/F13		↓ 軽い
T/F20	知的障がい	
T/F31	脳性まひ(車いす)	↑ 重い
T/F32		
T/F33		
T/F34		↓ 軽い
T/F35	脳性まひ(立位)	↑ 重い
T/F36		
T/F37		
T/F38		↓ 軽い
T/F40	低身長	↑ 重い
T/F41		↓ 軽い
T/F42	下肢切断(義足なし) 下肢機能障がい	↑ 重い
T/F43		
T/F44		↓ 軽い
T/F45	上肢切断	↑ 重い
T/F46		
T47		↓ 軽い
T/F51	脳性まひ以外の車いす (頸髄損傷、脊髄損傷、切断、機能障がい)	↑ 重い
T/F52		
T/F53		
T/F54		
F55		
F56		
F57		↓ 軽い
T/61	下肢切断(義足装着)	↑ 重い
T/62		
T/63		
T/64		↓ 軽い
T71/72	脳性麻痺などの協調運動障がい、3輪のフレームランニングを使用	

T	競走種目、跳躍種目
F	投てき種目

バドミントン

クラス	障がい	
WH1	車いすでプレーする下肢障がいのある選手	↑ 重い ↓ 軽い
WH2		
SL3	立ってプレーする下肢障がいのある選手	↑ 重い ↓ 軽い
SL4		
SU5	切断やまひなどの上肢障がい	
SU6	低身長	

ブラインドフットボール

全盲(B1)のみ出場可

ボッチャ

クラス	障がい
BC1	四肢、体幹に重度のまひがあり、車いす操作ができない脳性まひ。または下肢で車いすが操作可能で蹴りで競技をすることができる選手
BC2	上肢で車いす操作がある程度可能な脳性まひの選手
BC3	障がいのため投球ができず、介助者によるランプ(勾配具)で投球する重度な脳性まひやそれに相当する障がいのある選手
BC4	脳性まひ以外でBC1やBC2と同程度の四肢運動機能障がい(頸髄損傷や筋ジストロフィーなど)のある選手

自転車競技

クラス	障がい	
C1	切断、機能障がい、まひなど	↑ 重い ↓ 軽い
C2		
C3		
C4		
C5		
B	視覚障がい(2人乗り自転車)	
T1	重度のまひ、機能障がい(3輪の自転車)(ロード種目のみ)	↑ 重い ↓ 軽い
T2		
H1	下肢障がい(ハンドバイク)(ロード種目のみ)	↑ 重い ↓ 軽い
H2		
H3		
H4		
H5		

ゴールボール

視覚障がいの選手が出場可(B1～B3)でその程度は考慮されない

柔道

クラス	障がい	
J1	視覚障がい(全盲)	体重による 階級分け
J2	視覚障がい(弱視)	

パワーリフティング

下肢障がいのある選手が出場可。体重による階級分けで競技が行われる。

射撃

クラス	障がい
SH1	ライフル種目において下肢に障がいのある選手 ピストル種目において上肢や下肢に障がいのある選手
SH2	上肢に障がいがあり、ライフル銃を自分で支えることができず、 規定の用具で銃を支えて射撃を行う選手

座位バレーボール

VS1(切断など中～重度障がい)とVS2(人工関節や軽度の機能障がい)の選手が出場可能。障がいの軽いVS2クラスの選手は1チーム(12名)最大2名のみで、コートにはV2の選手は(6名中)1名のみ出場可能。

水泳

クラス	障がい	
1	肢体不自由	↑ 重い ↓ 軽い
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11	視覚障がい	↑ 重い ↓ 軽い
12		
13		
14	知的障がい	

泳法や障がいの種類・程度をアルファベットや数字で表記します。
S: 自由形、背泳ぎ、バタフライ / SB: 平泳ぎ / SM: 個人メドレー

卓球		
クラス	障がい	
TT1	車いす	 重い
TT2		
TT3		
TT4		
TT5		
TT6	立位	 重い
TT7		
TT8		
TT9		
TT10		
TT11	知的障がい	 軽い

テコンドー		
クラス	障がい	
K44	上肢に障がいのある選手。体重による階級分けで競技を行う	

車いすバスケットボール		
クラス	障がい	
1.0	下肢障がいの車いす選手 (上肢障がいを有する場合がある) 持ち点制で、各選手が障がいに応じて点数がつけられ、 コート上の5選手の合計が14点以内になるようにチームを構成する	 重い
1.5		
2.0		
2.5		
3.0		
3.5		
4.0		
4.5		

車いすフェンシング		
クラス	障がい	
カテゴリーA	腹筋機能があり、体幹が安定している選手	
カテゴリーB	腹筋機能が弱く、体幹が不安定な選手	

車いすラグビー		
クラス	障がい	
0.5	四肢障がいの車いす選手 持ち点制で、各選手が障がいに応じて点数がつけられ、コート上の4選手の合計が8点以内になるようにチームを構成する。0.5～1.5の選手に付き、合計点プラス0.5、2.0～3.5の選手に付き、合計点プラス1.0される	 重い
1.0		
1.5		
2.0		
2.5		
3.0		
3.5		

車いすテニス		
クラス	障がい	
オープン	下肢障がいの車いす選手	
クアード	頸髄損傷など、下肢だけでなく上肢にもまひなどの障がいがある車いす選手	

【日本の参加状況&メダル実績】

回	開催年	開催都市	参加国 数	参加選 手	競技数	日本選手団参 加数			メダル数			
						総数	選手	役員	金	銀	銅	計
1回	2010年	中国・広州	41か国	2,289	19	359	223	136	32	39	32	103
2回	2014年	韓国・仁川	41か国	2,497	23	476	285	191	38	49	56	143
3回	2018年	インドネシア・ ジャカルタ	43か国	2,888	18	484	304	180	45	70	83	198
4回	2023年	中国・杭州	44か国	約3,100	22	430	259	171	42	49	59	150

【過去のアジアパラ競技大会 日本選手団主将・旗手・団長一覧】

年	回数	開催地	主将	旗手	団長
2010	第1回	中国・広州	齋田悟司 (車いすテニス)	山田拓朗 (水泳)	大久保春美
2014	第2回	韓国・仁川	国枝慎吾 (車いすテニス)	高桑早生 (陸上競技)	大槻 洋也
2018	第3回	インドネシア・ ジャカルタ	鈴木孝幸 (水泳)	前川楓 (陸上競技)	大前千代子
2023	第4回	中国・杭州	岩渕幸洋 (卓球)	波田みか (座位バレーボール)	井田朋宏
2026	第5回	日本・ 愛知・名古屋	-	中川 もえ (陸上競技) 橋本 勝也 (車いすラグビー)	三阪洋行

【注目データ(最年長／最年少／最多)※過去&愛知・名古屋2026】

項目	性別	名前	数字	大会	競技種目
最年長出場選手	男子	山外芳敬	77歳	2018ジャカルタ	ローンボウルズ
	女子	別所キミエ	78歳	2026愛知・名古屋	卓球
最年長メダリスト	男子	小林和明	69歳	2018ジャカルタ	テンピンボウリング
	女子	小谷野重子	67歳	2014仁川	車いすダンス
最年長金メダリスト	男子	奥村直彦	53歳	2014仁川	自転車競技
	女子	田中照代	59歳	2018ジャカルタ	陸上競技
最年少出場選手	男子	山田龍芽	14歳	2026愛知・名古屋	水泳
	女子	一ノ瀬メイ	13歳	2010広州	水泳
最年少メダリスト	男子	川渕大耀	15歳	2022杭州	水泳
		戸田哲也	15歳	2010広州	7人制サッカー
	女子	一ノ瀬メイ	13歳	2010広州	水泳
最年少金メダリスト	男子	川渕大耀	15歳	2022杭州	水泳
	女子	宇津木美都	15歳	2018ジャカルタ	水泳
		北野安美紗		2018ジャカルタ	水泳
最多連続出場選手	男子	金子和也	5回	2010-2026	ゴールボール
		木村敬一			水泳
		鈴木孝幸			水泳
		高砂進			座位バレーボール
	女子	石浦智美	5回	2010-2026	水泳
		菊池智子			座位バレーボール
		西家道代			座位バレーボール
		藤井順子			座位バレーボール
		網本麻里			車いすバスケットボール
		萩野真世			車いすバスケットボール
		上地結衣			車いすテニス
一大会における最多メダル獲得選手	男子	久保大樹	7個	2018ジャカルタ	水泳
	女子	一ノ瀬メイ	7個	2018ジャカルタ	水泳
一大会における最多金メダル獲得選手	男子	鈴木孝幸	5個	2018ジャカルタ	水泳
	女子	木下あいら	3個	2022杭州	水泳
総合最多メダル獲得選手	男子	木村敬一	19個	2010-2022	水泳
	女子	一ノ瀬メイ	11個	2014-2022	水泳
総合最多金メダル獲得選手	男子	木村敬一	10個	2010-2018	水泳
		鈴木孝幸		2010-2022	水泳
	女子	木下あいら	3個	2022杭州	水泳
		上地結衣		2018-2022	車いすテニス

J-STARプロジェクト

日本パラスポーツ協会 タレント発掘事業



●J-STARプロジェクトとは

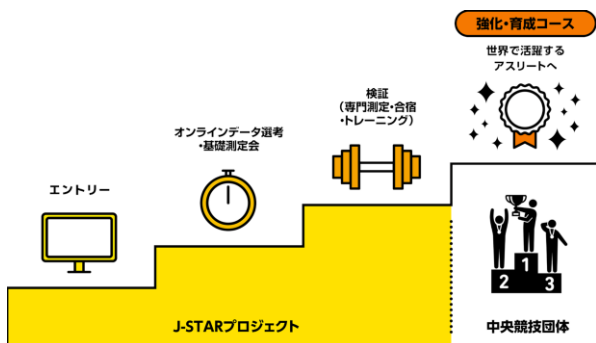
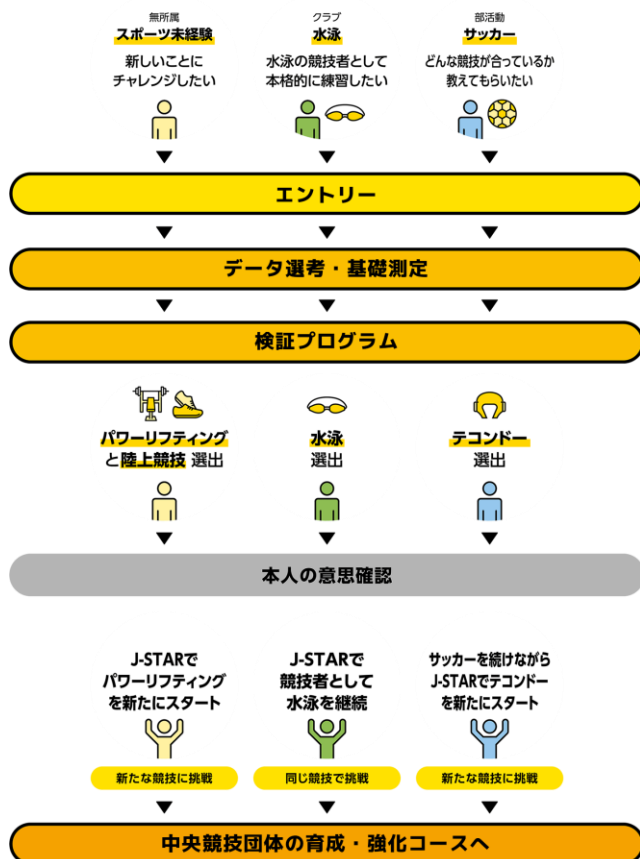
オリンピックやパラリンピックなど世界レベルの競技大会で輝く未来のトップアスリートを発掘するプロジェクトです。パラリンピック競技におけるアスリート育成パスウェイを強固にするため、全国各地の「メダル獲得の潜在能力を有するアスリート」を効果的に発掘・検証する仕組みを構築することを目的としています。

●サポート体制

1. **合宿での集中指導**: 合宿形式などのトレーニングに参加でき、集中的に指導が受けられます。
2. **居住地トレーニングも支援**: ハイレベルなトレーニングを継続できるよう、練習環境整備やメニュー作成を支援します。
3. **未経験競技でも挑戦可**: 未経験者への指導体制も充実。新たな競技へのポテンシャルが認められる可能性もあります。

●プロジェクトの流れ

ホームページからエントリー後、基礎測定会等で選考されると、各競技団体の指導者による検証プログラムに参加できます。また、検証プログラムを通して、有望者と判断されたアスリートは、J-STARプロジェクト修了後に中央競技団体の強化・育成コースにて引き続きトレーニングを重ねていく機会が得られます。



愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会には J-STARプロジェクトで発掘された32名の選手が 出場予定！ ※第5次発表時点

10代の選手が8名、20代の選手が16名と今大会にはJ-STARプロジェクトより発掘された若手選手が多く参加予定。32名中20名が女子選手で62.5%を占める。

競技名	氏名	ふりがな		性別	年齢	期
陸上（身体）	石山大輝	いしやま	だいき	男性	26	5期
陸上（身体）	近藤元	こんどう	はじめ	男性	26	5期
陸上（身体）	吉田彩乃	よしだ	あやの	女性	19	4期
陸上（知的）	堀玲那	ほり	れいな	女性	22	6期
ボッチャ	庵木菜名	あんのき	なな	女性	21	3期
ボッチャ	内田峻介	うちだ	しゅんすけ	男性	24	1期
ボッチャ	坂井結花	さかい	ゆいか	女性	25	1期
ボッチャ	関根彩香	せきね	さやか	女性	34	5期
ボッチャ	橋本寧々	はしもと	ねね	女性	17	6期
ゴールボール	鳥居陽生	とりい	はるき	男性	22	5期
ゴールボール	行弘敬祐	ゆくひろ	けいすけ	男性	26	4期
パワーリフティング	日野雄貴	ひの	ゆうき	男性	29	6期
水泳（身体）	井戸夢翔	いど	ゆめと	男性	20	2期
水泳（身体）	今村菜月	いまむら	なつき	女性	16	6期
水泳（身体）	上園温太	うえぞの	おんた	男性	20	2期
水泳（身体）	岡島貫太	おかじま	かんだ	男性	22	1期
水泳（身体）	都甲万結	とごう	まゆ	女性	14	8期
水泳（身体）	松永琴寧	まつなが	ことね	女性	20	3期
水泳（知的）	木下あいら	きのした	あいら	女性	20	5期
水泳（知的）	佐藤璃來	さとう	りら	女性	15	9期
水泳（知的）	牧山和樹	まきやま	かずき	男性	18	8期
卓球（身体）	藏下朝子	くらしも	あさこ	女性	17	8期
卓球（知的）	馬渡伊吹	まわたり	いぶき	女性	24	7期
テコンドー	市川桃	いちかわ	もも	女性	18	6期
テコンドー	大津恵美子	おおつ	えみこ	女性	47	5期
テコンドー	原田涼平	はらだ	りょうへい	男性	27	4期
射撃	辻尾玲奈	つじお	れな	女性	45	6期
車いすフェンシング	阿部知里	あべ	ちさと	女性	47	1期
車いすフェンシング	木村美貴	きむら	みき	女性	46	6期
車いすフェンシング	中川清治	なかがわ	きよはる	男性	49	2期
車いすフェンシング	松本美恵子	まつもと	みえこ	女性	57	2期
車いすフェンシング	吉澤周子	よしざわ	ちかこ	女性	51	8期

●これまでの実績(1期～9期まで)

1,829名のエントリーから、429名が競技団体の検証プログラムに進みました。パリ2024パラリンピック競技大会では、5競技8名の修了生が出場しました。なかでも、ゴールボールで金メダル(鳥居陽生:とりいはるき選手)、水泳で銅メダル(木下あいら:きのしたあいら選手)を獲得するなど大活躍しました。ミラノ・コルティナ2026パラリンピック冬季競技大会では、パラアイスホッケーとクロスカントリースキーの2競技8名の選手が出場しました。

前回の杭州アジアパラ競技大会では、J-STARプロジェクト出身の選手が18名出場し、金メダル5個を含む15個のメダルを獲得しました。

表：J-STARプロジェクト出身の杭州2022大会メダリスト一覧

競技	氏名	期	金	銀	銅	合計
陸上競技（身体）	石山大輝	5期	0	0	2	2
	小野寺萌恵	4期	0	0	1	1
	近藤元	5期	1	0	0	1
	三本木優也	3期	0	0	1	1
陸上競技（知的）	堀玲那	6期	1	0	0	1
カヌー	小松沙季	4期	0	0	1	1
ゴールボール（男子）	鳥居陽生	5期	0	1	0	1
水泳（身体）	上園温太	2期	0	1	0	1
	松永琴寧	3期	0	0	1	1
水泳（知的）	木下あいら	5期	3	2	0	5

●J-STARプロジェクトに関する参考動画



J-STARプロジェクト

<https://www.youtube.com/watch?v=4bvS7WsPih4>



パラリンピックへの道

<https://www.youtube.com/watch?v=ct8yy5Xjll0>



〈URL〉

https://www.parasports.or.jp/paralympic/jpc/aichi-nagoyapara2026/press_login.html

※ID 及びパスワードは、

jpcjpsa-media@parasports.or.jp

まで申請をお願いします。

日本パラリンピック委員会
Japanese Paralympic Committee

愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会
Asian Para Games Aichi-Nagoya 2026

2026年10月18日～10月24日

HOME ニュース 大会情報 日本代表選手団 競技紹介

ここをクリック

TOPIC

フォトギャラリー →

肖像およびマーケティングガイドラインについて →

報道関係者向け →

日本パラリンピック委員会	https://www.parasports.or.jp/paralympic/
愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会 特設サイト	https://www.parasports.or.jp/paralympic/jpc/aichi-nagoyapara2026/index.html
大会情報・アジアパラ競技大会	https://www.parasports.or.jp/paralympic/jpc/asianpara/
J-STAR	https://para-jstar.com/index.html
クラス分けとは	https://www.parasports.or.jp/paralympic/classification/index.html

愛知・名古屋大会組織委員会	https://www.asianparagames-2026.org/
ニュース	https://www.asianparagames-2026.org/news/
アジアパラ競技大会の歴史	https://www.asianparagames-2026.org/tournament/history/
実施競技及び競技会場	https://www.asianparagames-2026.org/ja/sports/

アジアパラリンピック委員会	https://asianparalympic.org/
ニュース	https://asianparalympic.org/apc-news-stories/



愛知・名古屋アジアパラ競技大会 日本代表選手団メディアガイド



(公財)日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会 広報課

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町2-13-6